

記者会見要旨 (2024年9月12日)

I 茂木会長挨拶

1. 第45回日本公認会計士協会研究大会名古屋大会2024にお越しいただきありがとうございます。協会会長として一言ご挨拶申し上げます。
2. この研究大会は、会員の研究成果を全国の会員の前で発表するとともに、外部有識者、実務家等から研究成果を発表してもらうことにより、知識の吸収及び資質の向上を図ること、社会との親交を深め、公認会計士の意見発信の場を提供するといった趣旨で開催しています。
3. 日本公認会計士協会の研究大会は、1979年に第1回が開催され、各地域との交流を深めることも目的として全国16地域会の持ち回りで開催されており、東海会としては、2008年の名古屋大会以来16年ぶりの開催となります。
4. 本日の研究大会の開催に向けて東海会会員及び関係者が力を合わせて努力をしております。
5. 名古屋大会の内容につきましては、このあと実行委員長から説明いたします。本日はこの努力の成果を皆様にご覧いただける機会でございますので、ぜひ、名古屋大会にご参加いただき、公認会計士への理解をより深めていただければと考えております。

II 「第45回日本公認会計士協会研究大会 名古屋大会 2024」について

1. 本日、名古屋マリオットアソシアホテルにおきまして、第45回日本公認会計士協会研究大会名古屋大会2024を開催いたします。
2. 本日は全国より800名を超える公認会計士が一堂に会し、徳川宗家19代徳川家広さんによる記念講演ののち、10の研究発表を行い、その後記念パーティーを執り行います。
3. 翌日には各種エクスカージョンが企画されており、名古屋城や岡崎城をはじめとした東海エリアへの観光等に多くの会員が出向かれることと思っております。
4. 当名古屋大会は2年前より準備してまいりました。集い語り合うことを念頭においた新型コロナウイルス以降の本格的な集合研修になります。
5. 過去4年間の研究大会は完全リモート開催や現地開催においても記念パーティーの中止などの制限がございましたが、今回は過去の大会の経験を活かしながら、北海道大会に続き通常どおりの形式で開催いたします。
6. 協会会員にとって、この研究大会が有意義な研鑽と交流の機会となることを祈念いたしております。
7. 今回の研究大会のテーマは「破壊、創造、継承。—VUCAの時代に公認会計士が取り組むべき課題—」としております。このメインテーマの趣旨について説明をさせていただきます。
8. 前回の名古屋大会(2008年)のメインテーマは『夢!魅力ある公認会計士-私たちはパブリック・インタレストに貢献します-』でした。『パブリック・インタレストに貢献する』とは日本公認会計士協会の前のタグラインであり、

時代がリーマンショック前で前向きな印象があります。

9. 名古屋大会 2024 では、準備委員会のメンバーで、公認会計士の業界を取り巻く課題、名古屋らしさを出すにはどうすればよいかアイデアを出し合い、皆で検討した結果上記のテーマに決定しました。
10. サブタイトルにある『VUCA の時代』とは、以下の 4 つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変転する予測困難な状況を意味します。

V Volatility(変動性) U Uncertainty(不確実性) C Complexity(複雑性) A Ambiguity(曖昧性)

「VUCA(先行きが不透明で将来予測が困難)の時代」と言われる現代は、数値の正確性や本質の見極めが困難となり、判断に影響を与える要素の多様性が増しており、公認会計士に対する社会のニーズが深化・多様化しています。そのような中、思考停止に陥り過去のやり方をそのまま前例踏襲するだけでは、社会の期待に応えることができず公認会計士は社会から取り残される可能性があります。

11. 次に破壊、創造、継承。『破壊』とは、いったんゼロベースにして、変化し続ける環境に合わない古いやり方や考えを取りやめ、新しい発想を生み出すきっかけを作ることを行います。『創造』とは、変化する環境に合った新たな価値を作り出すことを行います。

『継承』とは、古(いにしえ)から続く諸先輩の遺産や伝統で今も価値を持つものは続けていくことを行います。この 3 つのプロセスを継続し環境の変化に適応し続けることが、VUCA の時代に生きる公認会計士に必要であると考えました。そして、クライアントの破壊、創造、継承のプロセスを公認会計士が支えていくことが、公共の利益に資することに繋がると考えます。

12. そして、東海地区といえば織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の 3 英傑です。400 年以上前の戦国時代は先行きが不透明で将来予測が困難な、まさしく VUCA の時代だったといえます。戦国時代において、破壊、創造、継承のプロセスで環境に適応し、平和な時代をもたらした体現者が東海地区にはいたわけです。破壊=織田信長、創造=豊臣秀吉、継承=徳川家康、と 3 つのワードを 3 英傑となぞらえ、東海地区のイメージとも合致したテーマになりました。
13. 最後になりますが、今回のテーマに合わせ、記念講演を徳川家広さんをお願いし、また 10 の研究発表もテーマに裏打ちされた発表内容になっていると自負しております。

Ⅲ 稲垣東海会会長挨拶

1. 日本公認会計士協会には 16 の地域会があり、地域会が毎年持ち回りで研究大会を開催しております。
2. 先ほど、茂木会長から東海会として 16 年ぶりの研究大会の開催となるとの話がありましたが、地域会が 16 あることから 16 年ぶりの開催となった次第です。
3. 東海会は愛知県・岐阜県・三重県・静岡県を所管しており、この 4 県に約 2,700 名の公認会計士・準会員が所属しています。
4. 東京会、近畿会に次ぐ 3 番目の規模であり、16 地域会の中でも一定のプレ

ゼンスを有している地域会です。

5. この度、東海会として16年ぶりに研究大会を開催いたしますが、その概要は大島実行委員長に説明いただいたとおりです。
6. 日本公認会計士協会が2022年に公表した「ビジョンペーパー2022 日本公認会計士協会の進むべき方向性」では、将来ビジョン及びその実現に向けての方向性が取りまとめられており、「公認会計士の活躍の場の拡大」、「監査業務の再評価」、「上記を支える日本公認会計士協会の機能強化」の3項目が掲げられています。
7. この3項目ごとに、東海会として取り組むべき事項を重点施策として掲げています。
8. 一つ目の「公認会計士の活躍の場の拡大」について、公認会計士の多くが大企業の監査業務に従事しているとイメージされているかもしれませんが、東海会においては、大手監査法人に所属し監査業務に従事している会員は全体の30%程度です。
9. 残りの70%の会員には、独立開業し中堅・中小企業の支援をされている方が多いですが、四日市市の森智広市長のように、大手監査法人で監査業務を経験され、その知識や知見を地方自治体の運営に活かすという、全国的にも珍しい取り組みをされている方もいらっしゃいます。
10. 本日の研究大会では、四日市市の森市長と、こちらも公認会計士である米子市の伊木隆司市長のパネルディスカッションを実施いたします。
11. 大手監査法人で監査業務に従事したり、独立開業して中堅・中小企業の支援に携わることで以外にも公認会計士の活躍の場は拡大しており、企業に所属する組織内会計士や社外役員、パブリックセクターで活躍する公認会計士も増加しています。
12. 監査法人や会計事務所以外で活躍する会員についても東海会がサポートしており、本日の森市長と伊木市長のパネルディスカッションをサポートしているのも東海会の組織内会計士委員会です。
13. 会員の様々な活動をサポートすることを通じて、地域で活躍する組織内会計士や社外役員等への情報提供やコミュニケーションの機会を設けています。
14. 二つ目の「監査業務の再評価」について、協会本部で取り組んでいる事項が多いですが、地域会は地域のステークホルダーの顔が見えることから、大手監査法人や準大手監査法人、東海地区に本部を置く中小監査法人とコミュニケーションを取り、監査の質の向上に繋がる施策を東海会では実施しています。
15. 「公認会計士の活躍の場の拡大」及び「監査業務の再評価」を推進するために、東海会の機能を強化する必要があることから、三つ目の「協会の機能強化」にも多く取り組んでいます。
16. 具体的には、本日の記者会見のような対外的広報のほか、7月6日の公認会計士の日には、本部において新聞広告等を掲載していますが、東海会においても公認会計士制度を社会に知ってもらうために、日本経済新聞、中部経済新聞、中日新聞、静岡新聞に新聞広告を掲載する等、対外的な情報発信を行っています。

17. また、東海会は所管するエリアが広いことから、独立開業した会員が本部の情報にアクセスしづらくなる場合があるため、対内広報にも取り組んでおり、地域で活躍する公認会計士への情報共有に努め、コミュニケーションを図っています。
18. 本日、東海会が企画する研究大会である名古屋大会 2024 が開催されます。
19. 我々東海会の考えが、メインテーマや記念講演、10 テーマの研究発表、ランチセッションに込められています。
20. ランチセッションでは、「STATION Ai」の佐橋社長にご登壇いただき、この地域で公認会計士がどのようなサポートをしているかをアピールさせていただきます。
21. 引き続き、東海会の活動に注目いただければ幸いです。

以 上